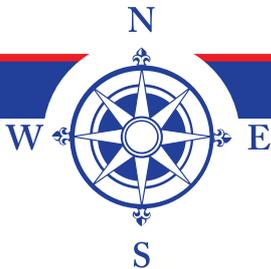


KANDAI NEWS

■ 関大ニュース



著名作家を招いて「国民読書年」記念特別企画

関西大学では全学共通科目に「読書への誘い」を置いて、大学生の活字への回帰を推進している。この授業では、読売新聞社が主管する「活字文化推進会議」の協力を得ながら、著名な作家等を招いての公開授業を実施している。「国民読書年」でもある今年は、10月23日に『鴨川ホルモー』や『鹿男あをによし』等の関西に縁のある作品で知られる万城目学さんを千里山キャンパスに迎え、読書教養講座公開授業を行った。入場無料(事前申し込み)で、一般市民も多数聴講した。続いて11月26日に、直木賞作家の角田光代さんを招いての学内公開授業を開催する。また、「国民読書年」記念特別企画として、12月15日には、高槻ミュージズキャンパスで作家の玉岡かおるさんの講演が、来年1月29日にも併設中学生を対象に作家を招いての講演がそれぞれ予定されている。

東京で「関西4大学学長フォーラム」「大学トップマネジメントフォーラム」開催



関西4大学(関西、関西学院、同志社、立命館)主催、読売新聞社共催の「関西4大学学長フォーラム」が10月31日、東京・品川インターシティホールで開かれた。7回目となる今回のテーマは、「次代を担うリーダーを育てる—関西4大学の提言」。作家の重松清さんの基調講演に続き、重松さんと4大学卒業生によるトークセッションが行われた。パネルディスカッションでは、日本バレーボール協会理事の三屋裕子さんと楠見学長らが、これからの大学の人材育成について提言し、意見を交換した。当日は関西4大学入試相談会も開催され、各大学のブースで入試担当者との個別相談も行われた。

また11月14日には、朝日新聞社主催の「大学トップマネジメントフォーラム2010」が東京・港区のザ・グランドホールで開催された。テーマは「大学からのマニフェスト—混沌の時代、トップ自らが語る大学の魅力とは〜」。渡邊美樹・ワタミ株式会社代表取締役会長兼CEOの基調講演があり、パネルディスカッションでは楠見学長など8大学の学長・総長が、混沌の時代を力強く生き抜いていける人材を育成するために、大学のビジョンや取り組みについて話し合った。

関西大学東京センターの多彩な公開講座

首都圏における関西大学の拠点である東京センターでは、一般の方が聴講できる公開講座を開いている。7月には「南アフリカ大会を振り返って—世界のサッカー・日本のサッカー—」をテーマに、世界が注目したサッカーの祭典・ワールドカップを総括する講座を開催。サッカー解説者の山口素弘氏(元日本代表)、サッカージャーナリストの後藤健生氏(関西大学客員教授)、法政大学教授の山本浩氏(元NHKアナウンサー)が、日本サッカーの戦い、世界のサッカーの進化など、さまざまな角度から語り合った。

7月から8月にかけては、「平城京遷都1300年—天平文化をさぐる—」が4回にわたって開かれ、盛況だった。7月から2011年2月まで開講中の「スキルアップセミナー—白石真澄と考える“ジブンとオシゴト”—」は、社会の第一線で活躍している方を招き、政策創造学部の白石真澄教授の司会で、先の読めない時代に自分自身の人生と仕事を考える機会を提供する6回のシリーズだ。



東京センターで開催された多彩な公開講座▶

体育会テニス部が関西大学対抗リーグ戦全勝優勝

体育会テニス部男子が、9月18日から28日まで大阪・シーサイドテニスガーデン舞洲で開催された関西大学対抗テニスリーグ戦1部リーグで全勝し、1921(大正10)年の創部以来初となる優勝を見事、完全優勝で果たした。この結果、平成22年度全日本大学対抗テニス王座決定試合への出場権を獲得した。

10月21日から25日まで岐阜メモリアルセンターで開催された全日本の王座決定試合は、4位という結果に終わった。しかし、関西リーグの1部に昇格したばかりで悲願の優勝を果たしたうえ、全国4位という快挙に、さらなる快進撃が期待される。



写真提供：関大スポーツ編集局